

組合員交流で新たなチャンスを

協同組合山梨異業種交流青中倶楽部(中村和雄理事長 組合員61社)は、7月20日に中央会研修室で会員間の交流をテーマに定例会を開催し、24名の様々な業種の経営者等が集まった。

同組合は平成10年に組合員間の交流による経営力のアップを目的に設立された県内でも草分け的な異業種組合。組合では、業種や事業が異なった組合員同士が研修事業等の組合活動を通じて多面的に



活発な意見交換がなされた研修会

情報交換することで組合員の各企業を発展、拡大させるような新たなビジネスチャンスを見つけることを目的に活動している。そのために

組合員に情報提供委員会・福利厚生委員会・教育研修委員会の3つの委員会のいずれかに所属してもらい、それぞれの委員会が立てた様々な研修事業や交流事業などに全員が参加できる体制をとっている。

今回の定例会では、参加者が4人ずつのグループに分かれ、自己紹介や会社紹介、業界の課題、会社の将来ビジョンなどを熱心に話し合っており、各々の組合員が発表し組合員間の交流が図られるよう情報交換がされた。

各グループでは、業界の課題として人材不足や人材確保の難しさについての意見が多く出され、若手社員の定着率の低さなどが課題としてあげられた。また、自社の将来ビジョンについて語る場面では、各社の経営向上のための取り組みについて活発な意見交換が行われた。

参加者は「毎回の定例会をきっかけに、新たな組合員との交流の機会を持つことができ、仕事につな



多くの会員が集まった

がることもある。また、様々なテーマの研修や意見交換により新たな気づきを得られることもある。これからは組合員同士で切磋琢磨し連携することで、お互いのビジネスチャンスの拡大につながることを期待している。」と話した。

組合では、組合員企業の経営向上に資するために、研修事業等の充実と組合員の拡大を目指していく。